

要なシラバスや教科書の数が想定よりも増加しているため、残りのプロジェクト期間中における作業は相当量残されている。こうした状況を鑑みると、案件終了時までにはPDM上の数値目標は達成するとはいえ、現在のFEMの活動を支えるためには、教科書の改訂や新規作成についてプロジェクト期間内にできること、終了後に必要な作業について整理し、終了後に必要な活動について具体的な実施計画と求められる支援の内容を精査する必要がある。

アウトプット2の指標は、三つ設定されている。指標毎の達成度は次のとおりである。

(1) 指標1：ほとんどのシラバスが計画どおりに作成される。

2003/2004年度のカリキュラムに沿って、既にシラバスが作成された。その後、カリキュラムの変更と新しい科目が追加されたことから、あたらしいシラバスを作成する必要性が生じているが、プロジェクト終了時までにはシラバスの大半が作成される見通しである。

(2) 指標2：当初計画に含まれていた科目すべてのカリキュラムと教科書が作成され、そしてその内のいくつかについては必要に応じて修正が施される

カリキュラムは、必要に応じて数回、改訂されている。最新のカリキュラムは、ミニッツ Annex 3.9のとおりである。教科書については、2004年4月から2005年8月までの活動計画を作成する際に、FEM側から、さらに多くの教科書改訂と新規作成の要請が出てきた。その時点までに、7種類の教科書が本プロジェクトによって印刷されていたが、改訂された活動計画では、2004年4月から2005年8月までに、13種類の教科書の改訂と17種類の教科書の新規作成が行われることとなった(計30種類)。その後、2004年12月までに4種類の教科書が作成されたが、さらに数種類の新規作成、改定対象の教科書が追加された結果、今後、プロジェクト終了時までには21種類、プロジェクト終了後に17種類の教科書を発行する計画となっている。

以上のように、当初計画に含まれていた教科書の作成はプロジェクト期間内に行われ、本指標は達成されるものと思われるが、今後のFEMの活動を支えるために必要な教科書が十分に整備されることは言いがたい。

(3) 指標3：新専攻科目のうちの4分の1の教科書が作成される

23の新専攻科目が計画されている。うち経済学科の科目が10種類、経営学科の科目が13種類である。プロジェクト側の説明によれば、プロジェクト終了時までには、確実に新専攻科目23種類のうちの4分の1の教科書を作成する予定、とのことであった。

3-2-3 アウトプット3：必要な機材と施設が存在する。

本プロジェクトの支援を通じ、FEMの運営に必要な施設と機材は整備されつつある。なお、FEMの建物は、我が国の無償資金協力によって建設されているが、現在、施設は、良好な状態で維持、活用されている。FEMがNUOLの文系の学部の中で最も人気のある要因の一つは、FEMが良質な施設を有していることにもあると考えられる。

ただしインターネットの設備については、通信スピードが極めて遅い等、改善の必要がある。また、通常コース(昼間のコース)の学生数が急増し、それ以上に特別コース(夜間コース)の学生数が極めて多くなっているため、教室数は不足している。

アウトプット3の指標は、二つ設定されている。指標毎の達成度は次のとおりである。

(1) 指標 1: 調達した機材と整備された施設が良好に維持管理され、十分に利用される

学生数が予定より大幅に増加したこともあり、施設や機材は、ほとんどフルに利用されており、むしろ教員の研究環境に適切なスペースを確保することが困難となっている。また FEM では、インターネットにアクセスすることが可能であるが、その通信スピードは極めて遅い。電子ファイルを電子メールに添付して送受信することも難しい。教員の研究活動や業務の効率性を高めるためにも、インターネット環境を改善する必要がある。

なお、現時点においては、施設や機材の状況全般は良好であるが、維持管理にあてられる FEM の予算やスタッフは限られている。最近、機材の管理を担当するエンジニアを雇用したものの、管理要員の 1 名増員が望まれる。

(2) 指標 2: FEM の図書館に関連図書が整備され、十分に利用される

プロジェクトの初期段階では、英語の図書が調達されていたが、2003 年 2 月以降は、徐々にタイ語の図書も調達するようになった。タイ語はラオス語に近似しているため、英語力が不十分な学生もタイ語の図書を活用することができる。これまでに本プロジェクトで調達された図書は、タイ語の図書 1,911 冊と英語の図書 6,403 冊、合計 8,314 冊である。この他に、ラオス語の図書や FEM の教科書も図書館の蔵書となっている。

経営学に関する図書は多くある一方で、経済学に関する本が少ないという指摘もある。また、学術誌も不十分と指摘されている。特に経済学に関する本についてはその必要性を調査し、調達を計画する必要があるだろう。

FEM 図書館では、1 日あたり平均約 100 人の学生が本の貸し出しサービスを利用しているが、図書館のメンバーカードを保有している学生は 600 人で、昼間の学生数約 1,000 人の約 60%であることを考えると、さらに活用の度合いを高める必要がある。また夜間の学生にとっては、授業開始が午後 5 時であり、図書館の閉館時間が午後 5 時であるため、図書館を利用するのは困難である。図書館の利便性改善のため、これまでの午前 8 時から午後 5 時までの開館時間を、午前 8 時から午後 9 時までに変更し、また閉架式から開架式に変更する予定である。時間の延長は、2005 年 2 月下旬から開始する予定であり、今後、更なる活用が期待される。

3 - 2 - 4 アウトプット 4: FEM 管理システムが改善される。

FEM の管理システムに関するアウトプットは、スタッフ数の増加以外の点では、およそ達成されている。オンザジョブトレーニング (On the Job Training : OJT) が進捗中であり、データベース構築後には学生の基礎情報が利用可能になる予定である (データベース構築はプロジェクト終了時には完成する予定である)。学部規定についても、短期専門家の支援も受け、整備が進み、取りまとめた案が既に作成されている。総じて FEM の管理システムは着実に改善されつつあり、プロジェクト終了時にはある程度の水準に到達するものと期待される。

アウトプット 4 の指標は、四つ設定されている。指標毎の達成度は次のとおりである。

(1) 指標 1: 常勤事務職員の人数が 6 人に増加する。

2004 年 3 月の JICA 運営指導調査団の助言を受けて、常勤事務職員の人数は増加している。ただし、職員雇用に関する大学の方針から、常勤の事務職の公務員を雇用する予算を確保することは困難であるため、FEM が自己予算を用いて 2005 年 1 月に 1 名の秘書を雇用したものである。現在、常勤と

非常勤の事務を担当する職員を合計すると約6名である。

これらの事務担当職員の中には、ラオス日本センターの仕事、英語教育、事務業務の特別コースの講師等を担当する人がおり、実質的に指標1を十分に達成しているとは言い難い。しかし、ラオス側の中心的なカウンターパートの意見によると、現在の業務量に比して事務職担当の職員数はほぼ満足しており、1人のみ追加すれば充分であるとのことである。したがって調査団としては、職員数に関しては目標をほぼ達成していると評価する。

(2) 指標2：常勤事務職員全員が、オンザジョブトレーニング(OJT)を受ける

OJTは、各職員がFEMの組織全体の構造を認識し、個々の職員の役割を明確に理解するといった目的で、専門家により継続的に行われている。また、FEMの事務作業手続きの明確化や情報共有のための管理シート作成も進められている。本プロジェクトが雇用しているプロジェクトスタッフからFEMの事務職員への技術移転も進められている。このようなOJTは、プロジェクト終了まで継続される見込みである。

(3) 指標3：学生に関する基礎情報がいつでも利用可能である

現在、学生情報のデータベース構築が進行中である。学生の情報を収集する作業は完了しており、データベースのデザイン設計が進められている段階である。デザイン終了後に、データベースのプログラミング業務を企業に発注する予定となっている。プロジェクト終了時までには、学生に関する基礎情報がデータベース上で利用可能な状況になる予定である。

(4) 指標4：学部の管理規定が作成される

FEM関係者との議論を通じて、学部管理規定の案が作成された。今後、大学本部職員や法学部職員などがメンバーとなっている全学レベルの委員会で、この管理規定案について議論される予定である。

3-3 プロジェクト目標

プロジェクト目標：FEM卒業生が優れた学術的・専門的知識と技能を有する

プロジェクトが実施したサンプル調査の結果では、FEMの卒業生の80%以上が卒業後1年以内に就職している。また、大半の卒業生がFEMの教育に満足し、授業科目に対する満足度も高い。FEMは、文系の学部の中で最も人気のある学部となっている。またFEMの卒業生は経済経営に関する幅広い知識を身につけていることから、一般的に就職先企業からの評判は高い。またFEMの卒業生の中には、経済政策研究の専門機関、国立銀行などに就職した者もあり、優れた学術的・専門的知識や技能を身につけている卒業生がいることも確かである。

プロジェクト目標の指標は、五つ設定されている。指標毎の達成度は次のとおりである。

(1) 指標1：卒業生の70%が卒業後1年以内に就職する。

本プロジェクトでは、2004年にFEM卒業生雇用状況についてのアンケート調査(サンプル調査)を実施している。FEMの第1期の卒業生が出た2001年から2003年までの間に、516人の卒業生を輩出しているが、この内、ヴィエンチャン市に居住している卒業生約300人を対象に調査が実施さ